

第9回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日時 令和3年12月10日（金）午後3時00分から午後5時00分まで

2. 場所 角田市役所301会議室

3. 出席者（別添出席者名簿のとおり）

（1）角田市長期総合計画審議会委員	25名
（2）策定本部	6名
（3）事務局	6名
（4）角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者	4名

4. 会議内容（概要）

1 開会

2 会長あいさつ

昨年の9月からこの会議はスタートしていますが、計画の策定自体は3年をかけて進めてきました。そして、今日やっと答申の手前まで来ることができました。おそらく、内容については、ご意見、ご要望等多々あるかと思えます。全員が納得するのはなかなか難しいとは思いますが、皆さんの同意を得た上で進めていきたいと思えます。この計画の策定から実際に計画を動かしていくまでのプロセス自体も市民力ということになるかと思えます。

本日はどうか忌憚のないご意見を出し合ってください、良いものを作っていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

3 市長あいさつ

第9回審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年9月に第1回を開催させていただきました本審議会も、本日、最終回ということで、委員の皆様には、お忙しい中、長期にわたりましてご尽力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

さて、去る11月21日、田園ホールにて、第6次長期総合計画シンポジウムを開催いたしまして、本審議会委員の皆様にも多数ご参加いただき、誠にありがとうございました。シンポジウムでは、柳井会長にコーディネーターを務めていただきまして、市民力をメインテーマに、様々な分野でご活躍のパネリストの方々とディスカッションをさせていただきました。市民の皆様をはじめ、企業・団体の方々にも数多くご参加をいただき、総合計画について、また、今後の角田市のまちづくりについて、様々な立場の

方々と共に考えるきっかけとなる、非常に有意義な場になったと思っております。

また、11月29日、30日には、2日間にわたりまして、角田市議会全員協議会が開かれ、これまで皆様に審議していただきながら策定を進めて参りました第6次長期総合計画案に対し、ご意見をいただいたところです。

本日は、そうした市議会からのご意見や前回の審議会でのご意見などを踏まえまして、最終的な修正内容について、事務局よりご説明をさせていただきます。審議会といたしましては、本日が最終回となりますので、答申をいただく内容も含めまして、ぜひ忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○審議会への市長の同席について

市長あいさつ後、柳井会長より、審議会への市長の同席について、以下のとおり発言があった。

[柳井会長]

議事に入る前に、黒須市長の本会議への同席について、前回同様、委員の皆さんに意見を伺いたい。本日の議事「(1) 第6次長期総合計画基本構想(案)について」、
「(2) 第6次長期総合計画前期基本計画(案)について」は、具体的な内容となるため、議事(1)及び(2)については、前回同様、黒須市長にこのまま出席していただきたいと思うが、いかがか。

⇒ 委員からの異議はなく承認されたため、審議会より市長の同席が求められ、議事(2)の審議終了まで同席した。

4 報告

(1) 第6次長期総合計画策定経過報告【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】

資料配布のみとし、説明は割愛した。このことに関する質疑等はなかった。

(2) 「角田市第6次長期総合計画(案)」に関する意見への回答

令和3年11月1日から令和3年12月5日まで市が実施したパブリックコメントにおいて提出のあった意見及びその意見に対する市の考え方等について、事務局(まちづくり政策課 齋藤企画調整係長)より、資料に基づき説明を行った。このことに関する質疑等はなかった。

※ パブリックコメントに関する資料は、市ホームページの別ページに掲載しています。 <https://www.city.kakuda.lg.jp/soshiki/4/9429.html>

5 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

(1) 第6次長期総合計画基本構想(案)について【資料1】

(2) 第6次長期総合計画前期基本計画(案)について【資料2】

基本構想案及び前期基本計画案における前回会議以降の修正点について、事務局(まちづくり政策課 木村課長、齋藤企画調整係長)より、資料に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおりであった。

[齋藤(勤)委員]

【資料1】3ページ最後の段落の「言い換えれば」という表現に違和感がある。表現を変えた方が良いのではないか。

[木村まちづくり政策課長]

適切な表現をお示しいただければありがたい。今すぐには難しいということであれば、内容に関わる部分ではなく、表現ということで、事務局に任せていただけるということであれば、持ち帰り検討させていただく。

[齋藤(勤)委員]

事務局で検討してほしい。

[柳井会長]

それでは、基本構想、基本計画について、これが最終案ということでもよろしいか。

⇒ 委員承認

※黒須市長、一旦退席。

(3) 第6次長期総合計画の答申(案)について【資料3】

第6次長期総合計画の答申案について、柳井会長より、資料に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおりであった。

[武智委員]

直接この議事(3)に関係することではないが、5つほど私なりに思っていることがある。

1つ目は、財政計画と連動して計画を進めていただきたいということである。計画

に見合った財政措置が必要である。また、計画の進行管理も徹底してやっていただきたい。

2つ目は、少子高齢化対策について、市民へのメッセージ性が弱く、強い意志があまり感じられない。最重要課題として、絶対にやり遂げるといふ強い決意をもって取り組むべきと考える。

3つ目は、市民力、市民が主役のまちづくりについて、計画中において、市民力とは「地域の課題について主体的に考え取り組む市民の行動力」とあり、「行政は市民と共に考え、汗をかき、角田市を高め合える環境づくり」が謳われている。市長や市議会議員、市職員は労働の対価として報酬・給与を得ているが、一般の市民はそうではない。仕事として取り組む人とそうでない人とは兼ね合いが難しいのではないかと感じる。

4つ目は、財政健全化について、感染症対策なども含め、財政が健全でなければ各施策を進めていくことは難しいと考えるため、経常収支比率の改善を望む。

5つ目は、人材育成について、「企業は人なり」と言うが、「行政も人なり」「地域も人なり」であると思っている。人材育成というと研修などがあると思うが、昨今は副業人材の導入や事業構想大学院大学の利用、ロジスティクス、ダイバーシティ、民間企業への出向など、専門性を生かすことも一つの考えであると思う。角田市においてもそういったことを踏まえた人材育成が必要であると感じる。

[柳井会長]

市役所の立ち位置というのは、触媒の役割に徹するべきだと思っている。役所がリードして市民がついて来いなんていうのは無理な話であり、そういう意味で触媒に徹するとなれば、人材の提供、予算措置、場所の提供くらいであると思う。プラットフォームとしてのNPOなどの活動団体が人材育成を含めて取り組んでいく、そういう仕組みを考えていかなければならない。

[木村まちづくり政策課長]

財政的な裏付けについては、財政計画を併せて作成しており、2月の議会では示す予定である。絵に描いた餅にならないよう、計画の実効性を担保していきたいと思う。

長期総合計画の構成としては、基本計画の下に実施計画というものがある。それがさらに具体的な事業レベルまでの計画であり、毎年向こう3年間の計画として作成することとなる。実施計画はさらに具体的な計画になるため、只今のご指摘についても十分念頭に置きながら、反映できるものは反映させていきたいと思う。その前提となる基本構想、基本計画については、十分・不十分という評価はあろうかとは思いますが、ご指摘の内容が網羅されていると考えている。

〔堀米委員〕

【資料3】1番の市民力の部分について、都市像に「市民力咲き誇る」というかなり前のめりな、将来を見越した言葉を入れたが、今回の計画を改めて見直してみると、人材育成、市民力育成という部分が少し弱いという印象を受けた。市民力育成、この地域を担う市民の育成についてももう少し力を入れて進めていくという文章を付け加えてはどうかと思う。これは学校教育の部分にも入っていったいいのではないかと思う。これまで学校教育は文部科学省の指導要領に沿って進めることになっており、地域性がなかなか盛り込めなくて、だんだん排除されていったと思うが、地域の人材を育てていくという地域としての強い想いを盛り込んでも良いのではないか、もっと踏み込んで人材を育てていくということで良いのではないかと思う。先日、小学校の校長先生と話した際に、6年生がバックキャストという手法で将来の自分のなりたい姿や地域の姿を想像しながら、今何をすべきかということをやっているという話を聞いた。その子たちも10年後には22歳で社会の一員になる。もう少し地域の特性というものを学校教育の中に取り込んでいって人材を育成していくことを期待しても良いと思う。

〔柳井会長〕

堀米委員のご意見は、この文章ではとらえきれないということであると思うが、具体的な文章案はあるか。この文章自体が良いかということも皆さんからご意見いただき、まとめていきたい。

〔齋藤(勤)委員〕

文章的には、「市民力・民間の活力・地域資源を最大限に活かすとともに、市民・事業者・行政が共に学び、成長とチャレンジを続けることにより、まちの魅力を向上させるよう努力されたい」とあり、堀米委員のご意見の内容も含まれていると理解する。そのような発言があったということで市長に答申する際に補足するのの一つではないかと思う。

〔柳井会長〕

本日の会議報告書も作成されるため、答申の際に補足するという形でよいか。

〔堀米委員〕

はい。

〔加藤委員〕

我々も正直、こうしてほしいというところはあるが、いろんな意味で皆さんとまとめ上げた計画だということも認めないといけないと思う。この答申の中で一番のポ

イントになるのは【資料3】5番だと思っている。やはり事業の検証や評価を行った上で一歩ずつ進んでいくということが大切である。そこに柔軟な発想を持ちながら見直していくことで、構想・計画を実のあるものにしていただきたい。この答申案については賛成である。なお、10年後は私はどうしているかわからないが、ぜひ若い人たちの弾除けになっていきたいと思う。

〔毛利委員〕

都市像について、「咲き誇る」ではなく「咲き誇れ」の方が良いと思う。「咲き誇れ、輝く角田、市民力」だとリズムがある。この都市像ではリズムがない。やはり何でもリズムカルにいかないと伝わらない。以前にも同様の意見を却下されているため、修正は必要ないが、気になったので発言した。

〔柳井会長〕

それでは、答申については、この内容でよろしいか。

⇒ 委員承認

6 答申

※黒須市長、再度出席。

柳井会長から黒須市長に答申書が手渡され、令和2年9月2日付け角企財第130号で角田市長長期総合計画審議会に諮問された角田市第6次長期総合計画について答申があった。その内容は別添答申書のとおりであった。

その後、出席した委員一人ひとりから、これまでの審議会の感想や今後の市政に向けてのメッセージなどの発言があった。その内容は以下のとおりであった。

〔柳井会長〕

計画を美辞麗句、総花的と批判して終わるのではなく、今後はこの計画を磨き育てていていただきたい。

〔安藤副会長〕

長い間、話し合いに参加させていただき、私も角田が大好きなので、いろいろな議論の中で、考えることがたくさんあった。会長の話にもあったように、みんなで磨いていければと思っている。

[遠藤(尚)委員]

私は今年度の4月から参加したが、計画の内容を拝見して大変すばらしい計画だと思っている。今後この計画の実践にあたって、評価をしながら見直し等々も図って進められると思うが、市民の皆さんのお力をお借りして、地域の皆さんと一緒に進めていくには、やはり計画の評価もしっかりとフィードバックして共有しながら進めていくことが非常に大事であると思う。ぜひ計画の実施、調査の内容等々も積極的に示しながら進めていただきたい。

[上條委員]

大変貴重な体験をさせていただいた。今後、企業として雇用の面やふるさと納税など、そういったかたちで角田市に貢献できるように頑張っていきたいと思う。

[菊地委員]

このような偉い方たちの中に私が入っているのかと思いながら始まった。いろいろな意見が出て、その結果、今日答申した内容に基づいて100%までいくかどうかはわからないが、角田を変えられたらいいと思う。

[齋藤(善)委員]

今回、総合計画の審議会に参加させていただくのは初めてだったが、市の方ではこのような市政運営をされているのだなと理解できたということと、会社との兼ね合いの中でどうすべきかというヒントを得ることができたと思っている。

[佐藤委員]

私は9月から委員となったため、3か月ほどの短い期間であったが、こういった審議会に参加させていただき、自分自身もとても勉強になる場所が多くあった。角田市で商売をさせていただいている一事業者としてこれから具体的に行動していく中で、角田のお役に立てるようにやっていきたいと思う。

[菅原委員]

今年の1月にワークショップを見学させていただいたが、高校生がすごく熱があり、今回の文章にも入っている市民力をすごく感じたところである。角田宇宙センターとしては以前から協力させていただいているが、引き続き教育や広報など、協力できればと思っている。

[戸田委員]

今日の答申の中で私が一番大事だと感じたのは2番である。非常に重いことを言っているのではないかと私自身は思った。やはり、市民も市役所の職員も常にアンテ

ナを立てて周りをよく見て、先を読んでそれに対処していかないとだめなのだなど。そういうのをここで言っているのかなと。ぜひ皆さんと私たちも情報を共有して先に進んでいきたいと、そういうふうに思った。

〔堀米委員〕

心残りが2つある。一つは、コロナの中で皆さんとのコミュニケーションが十分とれなかったということである。それから多様な方々が集まっているので、担っている地域の現場を、この審議会の中で訪れることができたかなという思いで、市長さんにもお願いしたことがあった。例えばアイリスさんの工場の中だとか、教育現場でどんなことが行われているのか、医療現場はどうなっているのかなど、皆さんが活躍している現場を見る機会がなかなか無い。そういう風にお互いのことを知らない、地域のことを知らないという状況で審議を進めることに窮屈さを感じた。

それからもう一点、私が非常に心に残ったのはRE S A Sを基にした若手職員の提言であった。あれが一番心に響いてきて、やっぱり誰がどういう思いでどういう計画を作っているのかという、人の物語というのがあると伝わっていくんだなというのを非常に感じたので、答申の中にはないのだが、それを今後是非、活かしてもらえたらなと思っている。

〔松本委員〕

今回の答申、特に私は最後の5番目のところ、ここ10年あまりを見ても病気や災害、社会環境、経済の構造等、激動の時代と言われ、この先もどう変わるのかということ、私たちの想像を遥かに超えるところがある。そういったところで柔軟な対応が求められていると思うので、そういった内容を入れていただいたのかなということ、非常に良い答申だと思う。直近の病気のところで言うと、なかなか直接皆さんと顔を合わせて会議をするというのは難しい状況になっているが、この審議会では皆さんと顔を合わせて審議できたというのは貴重な機会だったと思う。

ただ、最後一点惜しむところでは、皆さんとの懇親の場をできるだけ最初の方にもってきていただきたかった。今の状況からするとそれはできなかつたろうとは思いますが、最初にもってこることができれば、より一層活発な論議ができたと思うところである。社会が落ち着いて、またこういう機会があれば、最初の方に懇親の場があれば、もしかしたらさらに良い内容になるかと、そういったところを次回の時には検討いただければと思う。

〔砂金委員〕

私は社会教育委員として参加し、1年以上勉強させていただいた。第5次長期総合計画はどうだったのかなと思い、こういう流れもあるんだなということを見てきた。今後、これをどのようなかたちで磨いていったらいいのかということ考えたとき

に、いろんな人と相談しながらという風に思っている。さっそく、今月23日のかく大學の実行委員会に顔を出してくれないかということもあり、そういうところから取り入れていきたいと思う。

[遠藤(清)委員]

長い間貴重な体験をさせていただいた。私は角田が大好きである。これからも地域に対しても、角田に対しても貢献していきたいと思う。

[小野(孝)委員]

このような素晴らしいメンバーの中に参加させていただき、家族のことだったりとか、近隣のことだったりとか、地域のことだったりしか興味のない者ですが、大変勉強になった。

[小野(陽)委員]

個人的なことだが、私は37年前の今日、角田市民として入籍届を出して、38年と1日目である。転勤する夫だったため、2～3年角田にいればいいかなと思っていたが、夫は転勤を断っていたようで転勤もなく、ずっと角田にいて、角田市民になって38年目である。これからも角田のためにがんばっていききたいと思う。

[加藤委員]

第5次長期総合計画の折には、実は商工会は参画していなかったと聞いている。今回第6次計画を策定するにあたって、商工会がらみは4名も参画させていただいたので、産業部門、商工部門についていろいろと意見、お願いをすることができたということは大変うれしく思っている。先ほど私も発言させていただき、これからの柔軟な対応をお願いしたのが今日の感想というか、審議会を通しての感想であった。改めて角田発展のために微力だが尽くしていきたいと思っている。ひとつ、皆さんのネットワークを活かしてなんとか前に進んでいこうと思っている。

[日下委員]

10年先のことを果たして私が見えていたのか、自問自答していた。委員名簿に名は連ねたものの、はたして建設的な意見ができたのかなと反省している。ただ、将来に向けてかなり勉強させていただいたなと考えている。

[齋藤(勤)委員]

環境衛生組合連合会の前会長ということで参加させていただいた。今日的な課題としてプラスチックごみによる海洋汚染などの個別案件についても問題提起すればよかったと思っている。

今後の実施計画では、答申の5番目について適切に取り組んでいただきたい。また、財政について、この10年間でみると、4～5年前には財政悪化の予兆があった。そこで対応していれば、日本経済新聞に経常収支比率ワースト3で載ることもなかったと感じている。職員の方々には、答申の5番目の事業の評価・検証についてしっかり取り組んでいただきたい。

〔島津委員〕

民生委員児童委員協議会の主任児童委員ということで、子育ての分野で出席させていただいた。私はどちらかというと大人の方々にお話をするというよりも、小さい子どもたちと一緒に遊んだり話したりするのが落ち着く方である。心残りなのは子育て分野で参加させていただいたのに、児童福祉の分野を審議する際に都合により欠席したのが本当に申し訳なく思っている。県でもだいたい子育てに力を入れていくと聞いている。子どもの時から大事に育てられたという思いが大人になってからもずっと持ち続けていられる、地元を大切にしていこうということにつながっていくと思うので、これから実施計画の中でもっと小さいときから切れ目のない支援をしていただけたらと思っている。

〔高野委員〕

いろいろ知識を持った方々の意見を聞けてとても有意義な1年になった。これから10年過ごしていく中で、今日までのことをいろいろ考えながら角田市に役立つ活動をできたらと思う。

〔高橋委員〕

パブリックコメントの意見の中で、全国的に改革者として知られている上杉鷹山公の名前が出たが、実は角田でも歴代の殿様で12代の石川宗光という方がおり、上杉鷹山公と同じような改革を行った。ところが全国的には有名でない。そのような歴史を大事にする過程で子どもたちに教えていただければと思う。

〔武智委員〕

この長期総合計画が達成されれば素晴らしい角田になるのではないかと、そんな風に思っている。ただ、審議会については、人数が多いせいもあるが、だいたい一人一回しゃべると終わってしまうため、例えば章ごとに分科会を設け、意見を煮詰めていくというようなことも2～3回あってもよかったのかなと思っている。多くの方々を知り合いになれて、本当にうれしく思う。街で出会いましたら、私が気づいたら声をかけさせていただくが、私が気づかなかつたら声をかけていただければと思う。その後も本気で付き合いをしていただければ非常にうれしく思う。

[毒島委員]

この審議会が始まってから仕事の関係でどうしても欠席することが多く、大変申し訳なく思っている。会議の後に届けられる報告書を拝見することによって、皆さんのご意見やお考えを知ることができて大変勉強になった。教育委員の活動にも役立てていきたいと思う。

[毛利委員]

本当に長い間いろんな分野の方のお話を聞かせていただき、また行政の方の難しい内容にもついてこられたのが良かったと思う。隣の高橋委員は私の先輩であり、話を聞いていて学生時代にいろんなボランティアをして、そういう活動を教えてもらったのを思い出した。それがこの歳になるまで市民の皆さんに教えていただいたり、勇気をもって意見を言ったり、そんなことで自分もまだまだというか、もっと若い人が参加した方が良いと感じた。スウェーデンに行ったときも学生がそういう審議に入っているというのを見るとまだまだかなと。若い人など、様々な年代が集まる中での審議も良かったかなと思っている。

[渡邊委員]

皆さんのご意見やお考えを知り、本当に参考になった。スポーツ協会として参加しているわけだが、他にスポコムかくだの活動や社会教育委員もしている。仕事としては学校統廃合の事務局をしているので、皆さんの意見を参考にさせていただきながら進めていきたい。

[黒須市長]

委員の皆さんにはご苦勞をおかけしたことに感謝しかない。熱い議論を交わしていただき、厳しいことも、また、ためになるご意見もいただいた。皆さんのご意見を入れながらなんとか作り上げ、そして今日、ようやく答申をいただくことができた。本当に重い答申と受け止めている。これからがスタートであり、これをどのように実現していくかということが大切である。これは決して絵に描いた餅にすることなく、脇に置いて使っていただく、目を通しながら有意義なものにしていくということが大事である。そういった意味ではまだまだ足りない部分があったなと思っている。皆さんからのご意見にもあったが、まだまだ言い足りないことがたくさんあるだろうと思う。やはりまだまだ足りない部分は毎年度見直しながら、実施計画に反映させながら、5年後には基本計画を振り返りながら、次のものを作っていく。そういうことを繰り返しながら、実現に向けてがんばっていきたく思っている。主役は誰なのかということをお最後までご指摘いただいたが、主役はやはり市民の皆さんである。総合計画は、私たちがこれから歩むべき羅針盤であり、我が事として取り上げていただけるように行政もこれから市民の皆さんに機会あるごとにご説明して、ご理解をいた

だいていきたい。そして皆さんがそれぞれにご活躍いただき、市民力を発揮していただける、そういう風にこれから活用していきたいと思う。委員の皆さんにはまたプレイヤーとしてよろしくご指導とご活躍をお願いしたい。

7 その他

事務局(まちづくり政策課 齋藤課長補佐)より、以下の点について説明を行った。

○今後の第6次長期総合計画の策定スケジュールについて

角田市議会2月定例会での議案上程、議決後に冊子の作製・送付を予定している。

○角田市長期総合計画審議会委員の解嘱について

角田市長期総合計画審議会委員は、長期総合計画審議会条例第3条第2項の規定に基づき、令和3年12月10日をもって解嘱する。

8 閉会

第9回角田市長期総合計画審議会委員出席者名簿

令和3年12月10日

No.	役職	氏名	所属等	構成区分	備考
1	会長	柳井 雅也	東北学院大学 教授	知識経験者	
2	副会長	安藤 由紀子	角田市医師会	知識経験者	
3	委員	遠藤 恵美子	角田光の子保育園 園長	知識経験者	欠席
4	委員	遠藤 摂子	社会福祉法人 あけの星会 理事長	知識経験者	欠席
5	委員	遠藤 尚志	大河原地方振興事務所 地方振興部長	知識経験者	
6	委員	上條 徹	アイリスオーヤマ(株) マネージャー	知識経験者	
7	委員	菊地 恵美子	みやぎ仙南農業協同組合 理事	知識経験者	
8	委員	齋藤 善宏	日立Astemo(株) 人財統括本部 HRシェアードサービス部 宮城総務課 課長	知識経験者	
9	委員	佐藤 和行	七十七銀行 角田支店 支店長	知識経験者	
10	委員	菅原 満	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター 角田管理課 課長	知識経験者	
11	委員	戸田 宏士	戸田宏士司法書士事務所	知識経験者	
12	委員	堀米 荘一	合同会社あぐりっとかくだ 代表社員	知識経験者	
13	委員	松本 篤志	連合宮城仙南地域協議会 角田地区会議 議長	知識経験者	
14	委員	砂金 甚一	角田市社会教育委員	公共的団体の役員	
15	委員	遠藤 清子	角田市民生委員児童委員協議会 西根地区会長	公共的団体の役員	
16	委員	小野 孝子	角田市統計調査員協議会 会計	公共的団体の役員	
17	委員	小野 陽子	角田市各種女性団体連絡協議会 監事	公共的団体の役員	
18	委員	加藤 泰彦	角田市商工会 会長	公共的団体の役員	
19	委員	日下 三郎	角田消防署 署長	公共的団体の役員	
20	委員	齋藤 勤	角田市環境衛生組合連合会 前会長	公共的団体の役員	
21	委員	島津 恵美	角田市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部長	公共的団体の役員	
22	委員	高野 絹子	角田市商工会 女性部 副部長	公共的団体の役員	
23	委員	高橋 輝昭	角田市行政区長連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
24	委員	武智 照道	角田市行政経営推進委員会 委員長	公共的団体の役員	
25	委員	毒島 弘美	角田市教育委員会 委員	公共的団体の役員	
26	委員	毛利 良子	角田市芸術文化振興会 顧問	公共的団体の役員	
27	委員	渡邊 峰雄	角田市スポーツ協会 理事長	公共的団体の役員	

第9回角田市長期総合計画審議会における策定本部・事務局出席者名簿

令和3年12月10日

策定本部

No.	役職	職	氏名	備考
1	本部長	市長	黒須 貫	
2	委員	総務部長	中村 方彦	
3	委員	市民福祉部長	高橋 正明	
4	委員	産業建設部長	小湊 洋司	
5	委員	教育次長	玉渕 和紀	
6	委員	財政課長	大槻 信一	

事務局

No.	職	氏名	備考
1	まちづくり政策課 課長	木村 信幸	
2	まちづくり政策課 課長補佐	齋藤 学	
3	まちづくり政策課 企画調整係 係長	齋藤 謙	
4	まちづくり政策課 企画調整係 主査	渡辺 寛大	
5	まちづくり政策課 企画調整係 主査	安達 宗平	
6	まちづくり政策課 企画調整係 主事	佐々木 あづさ	

角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者

No.	職	氏名	備考
1	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 部長	山下 勝善	
2	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上席研究員	木村 暢男	
3	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 上級研究員	皆川 乾介	
4	七十七リサーチ&コンサルティング(株) 調査研究部 主任研究員	齋藤 信也	